

テーマ：授業内容と学生の興味の合致により主体性を育む

テーマ選定理由（１）大学の役割

私たちが考えた大学の役割

大学とは本来学問・研究のための場である。

→学びの楽しさへの気づきを促し、授業を通して主体的に参加する力を養い、社会の活力となる人材を育成する。学びの楽しさに気づくことで、授業に積極的になり、その積極性が社会から求められる能力に結びつく。

役割を果たすために、大学は何をしなければいけないのか

学びの場の改善である。

→役割を果たすためにも常に変化している現代社会に対応し、学びの場の改善をし続けなければならない。

テーマ選定理由（２）大学の現状

大学の現状はどうだろうか？

・自分で考えられる学生の減少

→履修登録の仕方など、自分が分からない事を学生自身が解決できていない。（保護者が電話で問い合わせしてくるなど）

・授業の優先順位が低い

→サークル活動による授業の欠席であったり、履修登録取り消しの理由がアルバイトのためであったりと、学生の中で授業の優先度が低い。

・授業内容と学生の興味が合致していない

→シラバスに記載されている内容を、学生に伝えきれていない。

これらの問題が進んでしまうと、大学本来の機能が失われてしまうと同時に、学生の自ら問題の解決に向かっていく主体性や積極性が失われてしまう。

→**授業内容と学生の興味の合致により主体性を育む**（＝テーマ）

解決策の検討

学ぶことの入り口である、授業選択や Web 履修のツールであるポータルやシラバスについて視点を向けた。

<質問>入学したての頃、それらに対して抵抗感や疑問を感じた事はないだろうか？

・ポータル

→ポータルのレイアウトをより見やすく、また親しみやすい様に工夫する。

・リアクションペーパー

→ポータル上で公開し、学生間で意見の共有が可能な場を提供する。学生同士で意見交

換する事で、お互いを刺激し合い学習意欲を促す事が可能である。

- ・シラバス

→学生により興味を持ってもらえる様に、内容などを工夫する。

<シラバスとは？>

シラバスとは、教員がコースの初めに学生に配布する授業計画の事であるが、アメリカでは教員と学生の契約書とされている例もある。これは、学生・教員双方に授業の成立に対し責任を持たせる役割があり、学生はシラバスへ目を通す事が必須である。同時に大学側は学生が必ずシラバスを見る様に促さねばならない。そのために、シラバスの中身の充実化を図る必要性がある。

<具体例>

利便性：

- ・教員側の書き方の統一
- ・授業の逆引き

→科目名から授業内容を検索するという手順が一般的であるが、自分が学びたい・研究したい内容から授業を割り出すといった手法を用いる事で、自分が興味を持った授業を見つけやすく、結果学習意欲の向上につながる。

中身の充実化：

- ・授業評価アンケートの結果を授業ごとに掲載
- ・過去の受講生の意見の掲載
- ・教員の顔写真の掲載

これらが整った上で、抵抗感を軽減させるために…

- ・履修登録の際にシラバスが表示される仕様にする
- ・オープンキャンパスや入学者に対して実際にシラバスに触れてもらう
- ・入学する際に事前学習として『シラバス入門』を組み込む

大学のイノベーションの提案

- ・授業の概要
授業内容と学生の興味の合致により主体性を育む
- ・何を問題として捉えたか
自己解決能力、学修への意識の低さ
- ・これを実現するために、どのようなアプローチが必要か
先程挙げた様なシラバスやポータルなどの ICT を活用して、学びへの入口をつくる
- ・解決されたときの姿
主体性の発揮が期待でき、卒業後も学び続ける姿勢が養われる